

読売新聞佐原杯争奪 香取市少年野球大会 2022 要綱

- 趣旨
本大会を通じて、少年少女の、スポーツを愛し、楽しみ、相互が協調、調和できる心と、総合的な運動による身体の健全な育成を図り、各チームの伸長に寄与すると共に、軟式野球の普及に努める。
- 主催 香取市スポーツ少年団
- 後援 香取市スポーツ協会
読売センター佐原
- 協力 読売センター小見川
読売センター神崎街久松新聞店
読売センター匝瑳北部
読売センター栗源
- 主管 特定非営利活動法人 水郷軟式少年野球協会
- 期日 令和 4 年 10 月 16 日 (日) 雨天等順延
22 日 (土)
23 日 (日)
予備日 29 日 (土)、30 日 (日)、
11 月 3 日 (木) (祝)、5 日 (土)
- 集合・受付
選手の集合時刻は試合開始予定時刻の 1 時間前が良いです。
ただし、試合開始予定時刻 20 分前のシートノックを考慮した準備をお願いします。
- 新型コロナウイルス対策
選手、指導者及び父母等会場に来られる方は、検温を各チームで済ませ、チェックシートの提出をお願いします。
- 集合場所 与田浦運動広場
- 開会式 なし
- 試合開始 午前 9 時 00 分
- 試合実施球場 与田浦運動広場 A、D
- 参加負担金 1 チーム 6,000 円
(当日、受付で徴収する。)
- 表彰 【団体】優勝 賞状・優勝旗・優勝杯
準優勝 賞状・準優勝杯
第 3 位 賞状
【個人】最優秀選手賞 (優勝チーム)
最優秀投手賞 (〃)
優秀選手賞 (準優勝チーム)
敢闘賞 (各チーム)
以上、賞状・副賞
- 第 24 回関東地区少年野球親善交流会出場 (大和市)
優勝及び準優勝チーム
本年の開催については確認中。
- 審判
 - 審判は、帯同審判員により行う。
 - 各チーム 2 名の審判員を帯同すること。
 - 審判員は、審判服を着用すること。
 - 組合せ番号の若いチームは、球審及び 2 塁々審を、他チームは、1 塁及び 3 塁々審を担当する
 - 担当は、組合せの審判担当表による。
 - 組合せ決定後並びに勝ち残り途中でチームの参加を取り消す場合は、大会運営に支障を来すので、必

ず代表者或いは監督等による審判員の人的派遣をすること。

- 記録員
 - 各チーム 1 名の記録員を帯同すること。
 - 記録員は、自チームの試合時、対戦相手チームと協力し、得点及び試合経過を記録する。
 - 諸注意
 - 試合中の選手への指示は、ベンチ入りした監督及びコーチに限る。
 - 大会中の怪我等事故については、各チームで責任を負うものとする。
 - 試合の進行については、球場責任者及び球場責任審判員の指示に従うこと。
 - 止むを得ず不参加となる場合は、早急に事務局へ連絡すること。
 - 大会事務局
事務局長 石川一美
〒287-0004 香取市岩ヶ崎台 1 4 番地 2 6
tel : 090-2237-5503
mail : npo.suigou.jimu@gmail.com
 - 大会競技規則
最新年度「公認野球規則」並びに全日本軟式野球連盟が発行する最新「競技者必携」及び「大会特別規則」を適用する。
 - 大会グラウンド規則
 - 大会球場がファールラインからスタンド、バックネット (柵まで) が少年野球区画基準の 12 m に満たない球場で、送球がスタンド又はベンチに入った場合、球場のフェンスを越えるか、くぐるか、抜けた場合、バックストップの上部継ぎ目から上方の斜めに張ってある金網に乗った場合、観衆を保護している金網に挟まって止まった場合、特別に設けたボールデットゾーンに入った場合の 5 項目については、ボールデットとし、その送球が打球処理直後の内野手の最初のプレイに基づく悪送球であった場合は、投手の投球当時の各走者 (打者走者も含む) の位置、その他の場合は、悪送球が野手の手を離れた時の各走者 (打者走者も含む) の位置を基準として 1 個の塁しか与えないものとする。
- ≪附記≫
大会グラウンド規則の①は、正規の送球では各走者 (打者走者も含む) には 2 個の塁が与えられる規則となっている。但し、狭い球場等ではこのような悪送球がなされた場合には、守備側に対して一方的に不利になることから規定するものである。この場合、野手が球に触れたかどうかには関係なく適用する。
- 大会特別規則
≪出場資格及びチーム構成≫
 - 大会出場資格は、特定非営利活動法人千葉県少年野球連盟 (以下「法人」という) の構成会員 (以下「チーム」という) であり、試合日程が学校行事等に関わらないこと。地域に於いて最終日まで参加できるチームを選出すること。
 - 大会出場登録でのチーム構成は、成人者による代表者、監督、コーチ (2 名)、スコアラー、介護員 (保護者 2 名以内、連盟ヒブス着用) と選手 9 名以上 20 名 (1・2 年生を含んでも良い) 以内と

する。ベンチ入り指導者（監督、コーチ）は、認定指導者有資格者**1名以上**とする。（但し、新規加盟チームに於いては1年間の猶予を与えることとする）。~~※試合前のトス時（メンバー確認）に認定証の提出を求め確認する。~~

- ③ 出場チームは、この法人の定款、大会規則、大会特別規則を遵守すること。

参加する1チームの部員数が8名以下（1・2年生を除く）のチーム同士の場合は連合を認める。

※連合は、選手数が少ないチーム同士数チームでも可能とする。連合チームの中の1チームの部員数が9名を超えても、連合していた他のチームの選手数が満たない場合は、そのチームの選手登録は救済処置として認める。但し、地域理事の承認を得ることとする。

- ④ 前項に違反した場合は、没収試合とし相手チームに勝利を与え、後日協議し処分を言い渡す。

- ⑤ 登録選手の変更は、組合せ決定後は認めない。

＜服装・用具＞

- ① 同一チームの監督、コーチ、選手は、統一されたユニホーム又は所属チームのユニホーム、帽子、ストッキング（アンダーソックス着用）、アンダーシャツを着用すること。代表者、スコアラー、介護員の服装は、平服とし、帽子（所属チームの物）を着帽し、靴は運動靴又はアップシューズとする。

※ストッキングは、アンダーソックス着用が分かること。

- ② 背番号は、監督30番、コーチ28番・29番、主将10番、選手は、0番～27番とする。

- ③ スパイクシューズは、監督、コーチ、選手全員とも同色系とする。但し、連合チームの場合は、所属チームのものとする。（金属歯のスパイクは禁止する）

- ④ ヘルメットは、「J S B B」公認マーク入りで両側にイヤラップの付いたものを最低8個用意し、打者、次打者、走者、ベースコーチ、ボールボーイは必ず着帽すること。

- ⑤ 捕手（控え捕手も含む）は、マスク（**S G マーク付き及び**スロートガード付（一体化も可）、レガース、プロテクター、ヘルメット及びファールカップを着用する。

- ⑥ 投手の守備を除き、選手（打者、守備）の手袋及びリストバンドの使用を認める。

- ⑦ 使用球は、全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とし、金属バットは「J S B B」公認マーク入りのものに限る。但し、破損（変形）・加工バットの使用は禁止する。

＜抽選会・開会式＞

- ① 大会の出場チームは選手名簿を提出し、開催前に行われる監督会議、抽選会に指導者が出席すること。試合組合せの抽選順は、抽選会受付順とする。

- ~~② 大会の開会式での選手宣誓は、組合せ抽選会での結果に基づき、出場する全チームの中から理事長（不在の場合は副理事長等）が、組合せ抽選会に出席したチームによる抽選とし、抽選番号タグを引いたチームの選手とする（基本的には主将）。抽選順は、抽選会受付順とする。~~

- ~~③ 大会開会式での各チームの集合時間は、開始時刻30分前までに受付を終了し、選手は指定された入場行進場所に整列していること。~~

- ~~④ 各チームの入場行進順は、先頭が前年度優勝チーム、次に準優勝チーム、続いて抽選番号の若番からグラウンドを持つ者が先頭で、次にスポーツ少年団旗、チーム旗を持つ者、以下背の低い順に並んで行進する。~~

- ~~⑤ 大会に出場する選手は、開会式に参加するものとし、特別な理由がない限りこれに違反した場合は、試合に出場することが出来ないものとする。~~

＜試合の集合時間・準備＞

- ① 第1試合のチームは、試合開始予定時刻1時間前までに集合し、指導責任者により受付を終了すること。第2試合以降も同様とする。

- ② 試合実施の可否は、午前6時00分に決定する。試合中止の場合は、大会本部から連絡する。雨天による判断が困難な場合は、時間までに試合会場に集合し、大会本部の決定に従うこと。

- ③ メンバー表の提出は、第1試合は試合開始時刻の30分前、第2試合以降は40分前までに監督、主将が4部持参し、グラウンドルールや注意事項等を確認すること。

但し、特別な理由がない限り、上記の試合開始時刻30分前又は40分前までにメンバー表の提出がなかった場合は、監督のベンチ入りは認めないものとする。

- ④ ベンチは、抽選番号の若番が1塁側、後番が3塁側とする。攻守の先攻、後攻はメンバー表提出時にトスにより決定する。~~（トス時にベンチ入り指導者の指導者認定証を携帯すること。）~~

- ⑤ 試合前のシートノックは、後攻のチームから開始し、時間は5分間とする。但し、前の試合の遅れ又は天候不安定等が生じた場合は、短縮又は中止して試合を開始する。

- ⑥ シートノック時のユニホーム着用指導者は、シートノック及び選手からの返球の捕球及びブルペンでの投球練習の捕手を行うことは認める。但し、試合開始後はこれらの補助は認めない。

- ⑦ シートノックを行うノッカーにボール渡しをする選手は、ヘルメットを着帽の上、前方からのトス渡しとする。試合中の球審へのボール渡しをするボールボーイも必ずヘルメットを着帽すること。

- ⑧ ベンチ入りの代表、監督、コーチ等の指導者が試合中にベンチを離れた場合は、退場したものとみなし再びベンチに戻ることは出来ない。但し、緊急を要する場合に限り認めることとする。

＜試合時間等＞

- ① 大会の試合形式はトーナメント戦とし、1試合（1時間30分）**6回均等回**で勝敗を争うこととするが、タイムゲームを最優先とする。1時間30分を超えた時は、新しいイニングに入らずその時点の得点を以て勝敗を決する（同点の場合は、特別延長戦ルールを適用する）。決勝戦も同様とする。

- ② 得点差によるコールドゲームは、**3回均等回終了後以降10点差以上及び**4回均等回終了後以降7点差以上の時に適用する。決勝戦も同様とする。

- ③ 日没、降雨によるコールドゲームの適用は、4回均等回終了後適用する。（同点の場合は抽選とする）。4回均等回終了前については再試合とし、後日の第1試合前に行う（決勝戦も同様とし、後日再試合）。日没、降雨の判断は、当該球場責任者、責任審判員が両チームの監督を招集し協議して決定する。

- ④ 上記2, 3項における「4回均等回終了」については、4回表が終了した時点で後攻チームがリードの場合、4回均等回終了とみなしコールドゲームを適用する。
- ⑤ 1試合のタイム数の制限：**6回**で攻撃側3回、守備側3回、特別延長戦は1回につき各1回とする。守備時3人以上集まればタイム1回とみなす。

《試合》

- ① 同一投手の投球回数は1試合4イニング（特別延長も含めて12アウト）とする。
1日2試合ある場合は、2試合目については3イニング（9アウト）とする。（1日の合計7イニング21アウト。）
※高学年大会に於いては、投手は5・6年生とする。特例として4年生以下も認めるが、出来る限り5・6年生を起用すること。（4年生以下の投手の投球回数は、1試合3イニング9アウトとする。）
- ② 投手の変化球は禁止し、変化球に対してはボールを宣告する。再度繰り返した場合は、その投手は交代させる。（その試合での再登板も認めない。）
- ③ 打者走者及び走者は、走塁の時ベースコーチ又は選手に触れてはならない。その場合走塁補助とみなしアウトを宣告する。
- ④ 死球等により手当を必要とする場合には、臨時代走（コーティシーランナー）を認める。代走は打順前位の者（投手、捕手を除いても良い。）とする。
- ⑤ 審判員に対するアピールは、監督と当該選手に限り認める。又選手交代を行う時は、監督が球審に申告する。試合中のメガホンの使用は、監督に限り認める。
- ⑥ 監督が投手と協議する時は、マウンドまで駆け足を励行すること。又選手への指示についても同様とする。但し、同一イニングに同様の行為を2回行った場合は選手を交代させる。
- ⑦ アウトを取る意思のない投手の塁への牽制、送球は遅延行為とみなし審判員はポークを宣言する。
- ⑧ 仮設球場等の場合は、球場責任者が球審と両チームの責任者に対してローカル・ルールの適用を説明し試合を行う。
- ⑨ 相手チームに対して悪質な抗議、野次等を行うチームには、当事者又は代表、監督の退場を大会責任者、球場責任者、当該審判員が命じることが出来る。少年野球にふさわしい応援で臨むこと。

《特別延長戦》

- ① **6回**終了後又は1時間30分を超え、後攻の攻撃終了時で同点の場合は、特別規則を適用し、直ちに「特別延長戦」を実施すること。
- ② 打者は前回の継続打者、走者は前回の最終打者が1塁走者として、2塁、3塁の走者は順次前打者として、1死満塁で1イニング行い、点数の多いチームを勝者とする。1回で勝者が決定しない場合は、さらに継続打順で1イニングを行い、なおも勝者が決定しない場合は抽選とする。決勝戦も同様とする。
- ③ 特別延長戦中の降雨・日没については、全て抽選とする（決勝戦も同様）。
- ④ 抽選方法は、球場責任者、責任審判員の指示に従う。
- ⑤ 特別延長戦での選手の交代は認める。但し、既に交代した選手の交代は認めない。

《附記》

- ① 試合会場（フィールド外を含む）に於いて、試合前の練習等での選手のバットの使用は禁止する。但し、ベンチ入り後の指導者によるバットを使った守備ノックと選手のベンチ前での素振り（指導者立会いのもと）は認める。
- ② 試合前のメンバー交換後、次試合の両チームの先発バッテリーのブルペンでの投球練習を認める。
- ③ ベンチ入り10分後にシートノックを開始する（時間の短縮を目指すため）。
- ④ 各会場に於いては、ベンチ内への組立椅子、机等の持込、使用は禁止する。なお試合終了後はグラウンド整備の手伝いとベンチ内の清掃を行うこととする。
- ⑤ 申告故意四球は野球規則（5.05(b)(1)）の通り、継続採用とする
本附記は2023年以降は掲載しない。但し、規則は継続採用。
- ⑥ 試合会場は公共施設を借用しているため、会場内は全て禁煙とする。ベンチ内も同様とし指導者等が喫煙目的でベンチ外に出た場合は、退場扱いとし再びベンチに戻ることは出来ない。

《審判規定》

- ① この規定以外の必要事項は、審判員が大会責任者（ここでは球場責任者）と協議して決定する。

チームマナーについて

1. チームが球場に到着した時は、直ちに本部に申し出て当日の注意事項を聞いてください。なお、試合終了後も連絡事項がありますので本部に立ち寄ってください。
2. 試合場の本部及び責任審判員の注意事項は、チーム全員に徹底してください。
 - ① チームのミーティングには、コーチャー、打者、次打者（低姿勢で待つ）は参加せず定位置についてください。
 - ② ダッグアウト前、次打席には、用具、物品（ロージンは別）を置かないようにしてください。
 - ③ 試合に直接関係ない選手は、みだりにダッグアウトを出ないようにしてください。
 - ④ 選手は、駆け足で守備位置についてください（投手は、インフィールドは歩いてよい）。
 - ⑤ イニング終了時のボールは、必ず投手板に静かに置いてください。
 - ⑥ ロージンは使用後投げないで、静かに投手板の後方に置いてください。
 - ⑦ 無用と思われるタイムや長いインターバルはとらないでください。
 - ⑧ 死球を与えた選手は、打者に会釈をし、紛争を起ささないよう留意してください。
 - ⑨ 打者がサインを見る時は、打者席内で行うようにしてください。
 - ⑩ 試合終了後、対戦両チームにより、球場整備を行ってください。
 - ⑪ 試合前・後のスタンドでの応援、見学時に飲食する場合は、後片付けを必ず行ってください。
4. その他、当日管理運営上のことについてご協力をお願いします。